

なぜ、実質賃金が低下しているのか？ — 新型コロナ禍後の内外の経済環境を踏まえて

名古屋大学大学院経済学研究科教授 齊藤 誠さいとう まこと

- * 日本だけコロナ禍後のV字回復未達の理由
- * 下げ続けている実質賃金
- * 原因のひとつは交易条件の悪化
- * データからすると人手不足ではない
- * 不調続く求人と求職のマッチング
- * 失業率の数字が上昇しない背景
- * 同時進行する非労働力化と再労働力化
- * 再労働力化の受け皿は非正規雇用
- * 直視すべき人手不足と逆の現実
- * 長期の円安政策による改革遅れも遠因



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

一段と寒さは厳しくなりましたけれども、皆さん多数お越しいただきましてありがとうございます。

本日は、名古屋大学大学院経済学研究科教授の齊藤誠先生に名古屋からお越しいただきました。先生は京都大学経済学部を出られた後、マサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学、それからカナダのプリティッシュ・コロンビア大学と8年間海外で研究されまして、その後、京大、阪大で助教授、それから一橋大学で教授を務められて、一橋大学の名誉教授でもあられます。

齊藤 誠
先生はたくさん著書がありですけれども、東洋経済からは2014年に、『大震災に学ぶ

社会科学』という大きなシリーズがありまして、大震災の問題をどう捉えるかというかなり大きなプロジェクトでして、『大震災に学ぶ社会科学 第4巻 震災と経済』を編著ということで、指導いただきました。

また、2011年に第33回の石橋湛山賞を受賞されていて、このときのご著書は『原発危機の経済学—なぜ起きたのか、何を学ぶのか』というご本でして、日本評論社から出していらっしやいます。このご本は、震災の直後に経済学者としてこの問題をどう考えるかということをお書きになったもので、私もこの授賞式には参加させていただきましたけれども、震災、原発の問題が本当に大変なときに、すぐに自分のお力でそれを分析して、社会に公表されると